



球宴開幕! 49チームがリーグ戦

4/17 穂高壮年ソフトボールリーグ戦開幕式

穂高壮年ソフトボール連盟のリーグ戦開会式が4月17日、穂高有明の市営有明運動場で行われました。本年度は、年齢40歳以上の49チーム796人の選手が、年代ごと9リーグに分かれ優勝を争います。選手宣誓をした橋爪ゴールドの赤羽功達あかはねいさとさんは、「ソフトボールを通じて仲間との絆を深め、けがのないよう頑張りたいです」と力強く宣誓しました。天候不順のため、当日の開幕戦は順延となりましたが、春を迎えた安曇野で各チームの熱戦が繰り広げられます。



光城山の桜保全が全国表彰

4/20 さくら功労者表彰市長報告

市と市民が協働で進める「光城山1000人SAKURAプロジェクト」(高橋恒雄会長)が、(公財)日本さくらの会の「さくら功労者」として表彰され、4月20日に宮澤市長へ高橋会長らが受賞報告しました。市内の桜の名所のひとつである光城山の桜の保全のため、登山道への植樹や自然体験会開催など、同プロジェクトの市民主体の協働活動が今回評価されました。高橋会長は「全国に知られる桜の名所を目指したい。将来は、市内中に桜が咲くまちにしたい」と話しました。

春の安曇野に歌声が響く

4/29 第33回早春賦まつり

第33回早春賦まつり(実行委員会主催)が4月29日、穂高川右岸の早春賦歌碑前で行われました。この日は、県内外から約500人が参加。市ふるさと観光大使の上松美香さんらが演奏するアルパの美しい音色に合わせ、参加者全員で歌う早春賦が安曇野に響き渡りました。

また、昨年市制施行10周年を記念して制定した市歌の大合唱も行われました。

早春賦の作曲者中田章さんの孫で特別来賓として来場した中田順子さん(東京都)は「初めのころは、数人で行っていた祭りがこのように盛大に行われるようになりうれしい」とあいさつしました。

早春賦大合唱にハーモニカの演奏で飛び入り参加した内藤博さん(大阪府)は「早春賦まつりの雰囲気が好きで10年ほど参加しています。演奏に参加でき、楽しかったです」と笑顔で話してくれました。



拾ヶ堰開削200年 先人の想いを後世に

4/15 拾ヶ堰開削200年記念事業記念碑除幕式

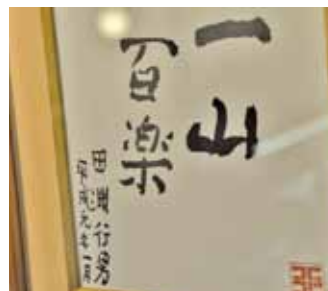
市内を流れる農業用水路・拾ヶ堰が、本年開削200年を迎えました。管理する長野県拾ヶ堰土地改良区(中島義朋理事長)では堀金拾ヶ堰の水路沿いに記念碑を建立し、4月15日に除幕式を行いました。拾ヶ堰は、江戸時代の1816(文化13)年に工事が始まり、述べ6万人以上の手で3カ月の短期間で完成。松本市島内の奈良井川から取水した水は、梓川を横断し、総延長15キロメートルを流れ、豊科、堀金、穂高地域の約800ヘクタールの水田を潤しています。中島理事長はあいさつで「景色の良い場所に記念碑を建てました。作業する組合員の励みになってほしい」と話しました。



安曇野産ホップ復活で地ビールを

4/12 ホップ定植作業と技術指導会

半世紀前まで行われていたビールの原料・ホップ栽培の復活と新たな産業振興を目指し「安曇野産ホップを生産する会」(斉藤彰久代表)では、ホップ定植作業と技術指導会を4月12日、堀金烏川の遊休農地で行いました。当日は、国内一の生産地、岩手県遠野市から講師を招き約30人が栽培方法を学びました。同会では、今後、市や県などの支援を受け、10アールの畑でホップを栽培する予定です。斉藤さんは「原材料をすべて市内産の『安曇野産100%』のビールを作りたい」と意気込みを語りました。



田淵さんが命名の「百楽桜」を楽しむ

4/9 田淵行男記念館百楽桜まつり

百楽桜まつりが4月9日、豊科南穂高の田淵行男記念館で開催されました。百楽桜は、田淵行男が遺した言葉「一山百楽(一つの山にもいろいろな楽しみ方がある)」にちなんで名付けられた桜です。同館では毎年、桜の開花時期に合わせ「百楽桜まつり」を開催しています。

当日は、記念館にあるワサビ田テラスに茶席が設けられ、来館者は、桜やワサビ田が作る春の風景を抹茶と共に楽しんでいました。家族で記念館を訪れた野中智己さん(松本市)は「見ごろの今だからできる桜の楽しみ方です。のんびりできます」と話しました。